

研究室のお引越し

平成20年8月18日(月)研究室が仮移転先へお引越ししました。

今回のお引越しは、教授室、准教授室、学生居室、実験室と、畜産資源分野だけで7部屋が一気に移動する上に、なんと大学院入試の前日！という驚きの作業となりました。多少のハプニングや怪我、器物損壊はありましたが、大きな事故はなく、無事忙しい一日を終えましたね。皆様お疲れ様でしたm(_ _)m。

この引越しで、学生居室は1階、4階、5階に分散していたところから横並びの4部屋(S-566, 568, 570, 572)に整列しました。ただ教授、准教授室からは、すっかりスーブの冷める距離になってしまいました。今まで、畜資のランドマーク的存在だったお茶会&飲み会用大テーブルは、置場がなくなったため今回の本移転時まで倉庫で保管されることになりました。今月からお誕生日会は、各部屋の個人の机でケーキを食べることに…！？

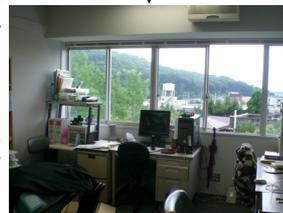
さて、今回の引越しではいろいろな教訓が誕生しました。反省点として、引越し業者、農学研究科の施設係の方、先生方、学生のいずれの間においても引越しするに当たり、事前の打ち合わせ(コミュニケーション)不足があったと思います。物を運ぶ順番、タイミング、人員配置等をもっと周知徹底していかなければいけませんね。特に、今回は大学院入試の前日にもかかわらず、受験生に少し負担が掛かってしまったのも反省点の1つです。逆に、1階の部屋の話ですが、今回の引越しでうまくいったところは移転先のレイアウトをしっかりと決めておいたことですね。事前に移転先の部屋の大きさを把握し、運ぶべき物品のサイズをきっちり測り、運ぶ順番を決めておくことで引越し当日にスムーズな運搬ができました。ただ、コンセントの位置等は調べていなかったのも、それらをあらかじめ調べてレイアウトをすることで更にスムーズな運搬ができると思います。また、来年の3月に本移転のお引越しが待っているので、これらの点に気を付けて引越ししましょう。



荷造り



もぬけの殻



明るい新居



たわわに実ったブルーベリー

目次:

～広岡先生の随筆⑭～ 2
結婚について

海外渡航の手続 3

納涼！北部生協夏祭り 3

Honduras goat
production 4

五山の送り火 4

大判ポスター作成のご
案内 4

お知らせ 5

大学院入試

研究室の引越しの翌日から、平成20年度の大学院入試が行われました。今年、畜産資源学分野を受験したのは、過去最高(?)の5名。なかなかの激戦となった模様です。

入試の日程は、一日目(8/19)が難関の英語と専門分野(1)、二日目(8/20)が専門分野(2)(畜産資源分野)、三日目(8/21)が面接です。今年の英語の問題は、難度も例年並みで農学の各分野からバランスよく出題されていたという受験生の感想でした。専門分野では、予想問題が的中していたとか…?!

受験生、先生方、院試お疲れ様でした～☆

ということで21日の夕方に『打ち上げ』を、ランチでおなじみの中華料理店『宏鑫(こうしん)』で行いました。相変わらずのボリュームで、美味しかったですね。開放感もあって盛り上がりました。さて、宴もお開きとなり、広岡先生から締めのお言葉を頂きました。その第一声が、「で、今日は何の会や?」…皆様お疲れ様でした。

いよいよ9月11日には、合否が発表されるそうです。来年の畜産資源の新メンバーが決まるので、ちょっとどきどきしますね。全員が合格していることを心よりお祈りします☆☆☆

久しぶりにお屋間自宅にいたら、ピーピーというヒヨコの鳴き声が聞こえてきました。何だろうと思って窓の外を見てみると、なんと鳩の雛が2羽産まれていました。鳩も小さいうちは可愛い鳴き声なんですね。両親なのか、大人の鳩が2羽近くに来てのどを鳴らしながら様子を伺っていました。真夏の最中、ちょっとした涼しさが訪れたような気分です。普段は家の窓のサンに飛んできて、厄介な思いをさせられる鳩ですが、チビ達には元気に巣立ってほしいものです。

好評連載 広岡先生の随筆

⑭結婚について



先日の誕生日会で、酒井君から結婚について問われた。結婚とはどういうものなのかと若い学生諸君に聞かれても、なかなか答えにくいものであるので、今回、結婚について私見を述べようと思う。



一般に、人間を含む動物は、生まれ、育ち、子供を生み、老いて死ぬ。人間の場合、他の動物と違い、多様な生き方があるが、最も一般的な生き方はこのパターンにしたがっている。しかし、他の動物と異なり、人間は不特定多数と交配を繰り返し、多くの異なるパートナーの子孫を無分別に生むことは、社会的にも倫理的にも許されないため、パートナーを特定し、できるだけ子供の両親が多様にならないようにするために、結婚という儀式を行う。それが、結婚の一つの定義と言えなくもない。

私は、博士過程の2回生の時に結婚し、その翌年に長男が生まれた。妻は当時専攻事務の非常勤職員で、今から思えば、無謀と思える結婚であった。私の収入は、家庭教師の収入のみで、妻の収入と合せても10万円そこそこであった。私の両親の資金的援助と、妻の親のセカンドハウスに住むことにより、何とか経済的に成り立った。当然、好物の牛肉はめったに食べられなかったし、肉といえば、ブラジル産の鶏肉が普通であった。言うまでもなく、指導教授の山田先生は当初は反対であったが、「あなたも24歳で私と結婚したじゃない」という山田先生の奥さんの説得で、結婚の許しを得ることができ、何とか研究を続けさせていただいた。さらに、「子供ができました」と報告に行った時の、山田先生の落胆された顔は今でも脳裏から離れない。しかし、今から振り返れば、結婚生活は、非常に楽しく幸せな日々であった。また、当時はいい加減な学生が多かったせいか、大学院生と若い非常勤事務職員の結婚は少なくはなかった。もっとも、その当時、結婚潮流という女性向けの雑誌があり、そこに大学教授の奥さんになる方法として、大学の事務職員になることが有力な方法として掲載されていた。

結婚が成功するかどうかは運・不運の世界である。結婚は一人でするものではなく、相手との相性も重要で、しかもさまざまな環境条件やタイミングによって、同じ相手であってもうまく行ったりいかなかったりする。そのことを考えれば若い諸君が結婚に臆病になり躊躇するのは理解できる。しかし、長くつきあって、結局結婚することなく分れてしまうのであれば、その過ぎ去った時間にどれほどの意味があるのだろうか。

私ができるアドバイスは、本当にお互いに相手のことがベストと思えるのであれば、できるだけ早く結婚することである。私もそうであったが、結婚はしてみれば何とかなるものである。よく学生諸君の中には、経済面を問題にするものが多いが、学生結婚したが、経済的な理由から離婚したという話は、少なくとも私は聞いたことがない。むしろ、学生時代につきあい、いろいろと援助をしてもらいながら、職を得たとたんに分れるケースの方がずっと多いように見受けられる。

私見であるが、結婚において最も重要な点は、相手を信頼できるかどうかである。恋愛であれば、騙し騙される、あるいは不安定な恋愛の方がむしろ燃えあがるものである。一方、結婚のパートナーは心から信頼できることが最も重要で、その前提の上で、お互いに仕事と家庭に集中できる。また、相手に寛容になれることも重要である。相手のミスや誤りを許し合える。相手を信頼でき、相手に悪気があって行ったことでないと信じられればこそ、相手のミスや誤りを許すことができ、寛容にもなれるのである。

人は結婚して初めて次のステージに進むことができる。順序が逆になってもかまわないが、子供を生み、育てるには、結婚は不可欠である。このことは、言い換えれば、最も一般的な生き方のパターンを進むためには、結婚は必ず通らなければならない道である。不幸にも、よいパートナーに恵まれなかった場合には仕方がないが、運よくよいパートナーに出会ったのであれば、恐れることなく、次のステージに進むことも一つの方法である。異論もあろうが、これが私の結婚に対する考え方である。



広岡博之





海外渡航の手続き

学会参加や研究などで海外へ出掛ける人が当研究室でも多くなってきました。しかし、必要な手続きをきちんとしないまま渡航してしまう学生が多い！という事務さんからの悲鳴がありましたので、ここで研究・調査・留学・学会参加など研究に関わる海外渡航のための手続きについてご紹介したいと思います。詳細は農学研究科のHP、留学・国際交流についてURLへ。
 < <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/j/modules/tinycontent3/index.php?id=17> >

研究に関わる渡航手続で重要なのは、海外留学生安全対策協議会緊急事故支援システム(以下JCSOS)への加入と海外渡航届けにかかる書類の提出です。

<海外渡航手続に必要な書類>

- ①海外渡航届け
- ②渡航理由書(渡航期間が3ヶ月を超える場合のみ提出、指導教員に作成してもらう)
- ③学生海外渡航通知書
- ④研究者カード
- ⑤誓約書
- ⑥海外旅行保険証書の写し
- ⑦JCSOS加入申込書と加入者情報

*** 注意！海外渡航の際、個人の旅行保険として、クレジットカード付帯の旅行保険を利用される方が多いと思います。クレジットカード付帯の旅行保険は、補償額が低く、救済費用を適用される人数が少ない等の制限があります。旅行期間や旅行先、旅行目的にもよりますが、できるだけ補償額の大きい、保険会社の提供する旅行保険に加入して頂くよう、お願い致します。特に、学部生・院生が、留学や**

研究・現地調査等の目的で海外に渡航する際には、原則として、クレジットカード付帯の旅行保険ではなく、保険会社の提供する旅行保険に加入することとします。最近ではインターネットから加入でき、必要な分の保障内容だけを選択できる、お手軽な保険も多くあります。

渡航に際して、先生はもちろんですが、研究室の事務担当上原さんに、あらかじめ旅程や内容をお知らせしましょう。必要な書類が出来上がったら、上原さんに提出してください。記入方法などわからない点についても相談に乗ってくれますよ。

くれぐれも分からないところを空欄にしたまま出発してしまわないで下さい。上原さんの出勤日が少ないので早めの準備を心がけましょう。

さらに、上記の2点以外に出張手続(旅費請求)としての必要書類があります。

航空券の予約が取れたら、下記の書類を旅行代理店から発行してもらうようにしてください。

- ①代金の見積書(請求書でも可)
- ②フライトスケジュール
- ③領収書

帰国後は、搭乗券の半券も必要となりますので、なくさないようにお願いします。

研究のための海外渡航は、言葉や生活習慣、疾病、一般犯罪などの不安に加え、食事や気候の変化を伴うため、出発前は何かと準備に時間を要するものですが、事務手続きも重要な準備のひとつです。このような書類の作成は、社会に出てからも役に立つので、抜かりないように注意してください。

コラム:一言一考 ⑥

「思いやり」

非常に高度な心理的発達段階から出る自然な感情。「優しさ」と「思いやり」の違いは性質と行為の違いもあるが、見返りを求める心の違いではないかと考えている。見返りを求める優しさは時に暴力になるが、思いやりはもともと与えているものなので見返りなど必要がない。また、思いやりは、自分に与えるものがなければ発生しないため、己を削る必要もない。この心理は非常に高度な心理的成長の結果もたらされるものであると思う。

(めんたいこ)



ラオスのカエル料理に挑戦！



納涼！北部生協の夏祭り



8月1日(金)午後5時半から、我々が北部生協にて『夏祭り』が開催されました。バーベキューに京都の地酒、寄席やマジックショー、京都大学高槻農場で栽培された野菜の即売会、抽選会などさまざまなイベントで盛り上がっていました。北

部生協2階で金券を購入してお祭りに参戦です(これがなかなか面倒くさい)。農場で取れた野菜はとても新鮮で、ついあれこれ購入してしまいました。バーベキューやつまみも格安で、つい買い過ぎ。500円の金券はあっという間になくなります。6種類の地酒を試飲できる「全種飲み比べセット」200円は大変お得です。ただ、夕方以外ではほろ酔い気分になるため、蚊に散々刺されてとてもかゆい思いをしました。来年は、虫除けをもって参加したいと思います。

長野県開田高原で、日本在来の木曾馬を見学してきました。みんなおっとりしていて温かな感じがしましたが、外見上は体高の割りに顔が大きく足が短く、典型的な日本人体型でした。



長野県開田高原で、日本在来の木曾馬を見学してきました。みんなおっとりしていて温かな感じがしましたが、外見上は体高の割りに顔が大きく足が短く、典型的な日本人体型でした。

Honduras goat production; International and local goat production promotion programs and their role with local farmers

～大判(A0サイズ)ポスターの作成のご案内～

当研究室のメンバーが、学会等のポスターセッションで使われるA0サイズのポスターを作成する場合、学内の学術情報メディアセンターまたは応用生物学専攻の複写室にある大判カラープリンタの利用が可能です。メディアセンターにあるプリンタの方がきれいに印刷できるという噂もありますが、実際に印刷してみたところ、専攻の複写室でも充分きれいな仕上がりでした。

さて、実際にポスターを印刷する方法ですが、メディアセンターのプリンタを利用する場合は、自分のパソコンで作成したポスターを、prnファイルへ変換し、そのファイルをメディアセンターへ持って行って印刷します。詳しい手順は、メディアセンターのHP< <http://www.media.kyoto-u.ac.jp/> >に掲載されていますので、ご参照ください。

次に、専攻の複写室で印刷する場合は、パワーポイントなどで作成したファイルを、研究室のノートパソコン(DELL)にコピーして、ノートパソコンを複写室にもって行き、大判プリンタに接続。プリンタのドライバは既にインストールされていますので、設定とプレビューを確認すれば、そのまま印刷することができます。

今回からシリーズで留学生のレニンさんに母国ホンジュラスの紹介をして頂きます。

Introduction

Honduras is a vibrant country, brimming with clear turquoise waters, pristine beaches, lush jungles, breathtaking mountains, challenging rivers, and fascinating ancient ruins. Vast expanses of Mother Nature are to be found everywhere.

Ecotours, inexpensive scuba diving, river rafting and mountain treks are what Honduras is known for today. Honduras is enjoying a boom in popularity, as the rich and famous have found a place where they can still travel unknown. First time visitors to Honduras are amazed by the warmth of Honduran hospitality. Returning travelers have never forgotten it.

The Country of Honduras is home to people from various ancestries, from the Mayan Indians who left us the Copan Ruins; archaeological site (considered one of the most artistically advanced and elaborate of all Mayan cities) to the Garifuna communities (known in Europe as the Black Caribs) which are found today all over the costal cities within Honduras. (Honduras.com, 2008).



Garifuna girl, Tela Honduras. Source: www.flickr.com

Honduran Goat production; A review of actual production condition

Rural people in Honduras constituted almost 61% of the total population. They have little access to basic resources-food, shelter, potable water, sanitation systems, education, communication, roads and markets. Eighty percent of all rural people in Honduras live in poverty. 66% of farmer who produce basic grains, the country's staple food, have access to only 8% of all cultivable land. This 66% has slightly more than 1 ha of a land each to secure a year's supply of basic grains to feed a family with approximately six children and to produce surplus for the nation (FAO, 1996-2001).

To be continued...

五山の送り火

8月16日、京の夜空に浮かぶ大の文字…五山の送り火だ。五山の送り火は、京都を囲む5つの山に、「大文字」(20:00点火)、「妙法」(20:10点火)、「船形」(20:15点火)、「左大文字」(20:15点火)、「鳥居形」(20:20点火)の5種類の炎を焚く、お盆の伝統行事。京都大学は中でも「大文字」に近く、私は試合後のグラウンドから、そしてそのあと、お引越し先の研究室(その時はまだ移転日より前だったが)から、炎で彩られた大文字を見ていた。いつも見ている「大」よりも大きく、目の奥に、心の中に迫ってくるような迫力だった。きれい……。

大文字は京大生にとって馴染み深いものである(と私は思っている)。30分から1時間もあれば大の中心まで登れるので、軽い登山には恰好な山である。ふもとには銀閣寺があり、お土産

やさんが軒をつらね、声をかけてくる人力車のお兄さんに軽く観光客気分を味わえる。

私がマネージャーをしている部では、毎年送り火の翌日に大文字に登り、炭を持ち帰ってくる。その炭を使って、試合のときに目の下を黒く塗るのである。陽射しによるまぶしさを軽減するのが目的だが、プレイヤーにとっては願掛けの意味もあるようだ。また、トレーニングとして「大文字ラン」を行うことがある。練習に遅刻した罰としても「大文字ラン」が使われたりする。トレーニングであるにも関わらず、大文字を走ってきたプレイヤーの顔はむしろ晴ればれとしたすがすがしさである。まさに自然の力だなぁと思う。

大文字は、文字通りその大きな姿で、私たちの日常を見守ってくれているような気がする。

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月は、夏休み中なのでゼミの予定はありません。10月から再開する予定です。後期のゼミの予定を作りますので、皆様のご都合をゼミ係りまでお知らせ下さい。

ゼミ係

今月のおみや

名古屋名物“ゆかり”の、名古屋限定黄金缶です。普通のゆかりと何が違うのか、いや、そこらの海老せんべいとどう違うのか、と言われると、名古屋人は口ごもってしまうようです。「かっぱ海老せんべいの味がする！」は、禁句ですのでご注意ください。



研究室の動き

先月から引き続き椎野君 (M2) がネパールで研究中です。帰国は9月下旬の見込みです。8月29日～9月6日には、塚原さんが世界山羊学会 (メキシコ、ケレタロ州) でポスター発表、9月2～3日は西尾君が関西畜産学会 (神戸大学) で研究発表、9月22～26日は田端さん、兒嶋君がアジア大洋州畜産学会 (ベトナム、ハノイ) でそれぞれ研究発表の予定です。このほか西尾君が家畜改良センター (福島) での最先端動物遺伝育種セミナー参加 (9月8～10日)、長命さんと柳君が滋賀の生態研で同位体実習 (9月8～12日)、塚原さんがJICAアフリカ地域別研修「小型草食家畜生産を通じた農村開発」コースのお手伝い (家畜改良センター海外協力課9月8～11月20日) で研究室を留守にしています。今月も皆さん忙しくなりますが、残暑に負けず頑張りましょう!

2008年9月の飼育当番

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3 熊谷先生・服部・竹内 体重測定・予防注射Ⓞ	4	5	6
7	8	9	10 田端・木村・兒嶋 体重測定・予防注射Ⓞ	11	12	13
14	15	16	17 レニン・イクバル・柳 体重測定・予防注射Ⓞ	18	19	20
21	22	23	24 大石先生・西尾・服部 体重測定・予防注射Ⓞ	25	26	27
28	29	30	10/1	2	3	4

編集後記 今メキシコで編集作業をしています。世界中の山羊研究者、いえ、山羊好きさん達が一堂に会する4年に一度のビッグイベント。メキシコシティから車で3時間もかかるのに、700人近くが集まりました。山羊好きとして集まっているだけで、みんながなんとなく親近感を感じています。もちろん山羊Tシャツ、山羊タオル、山羊チーズの人気はすごくて飛ぶように売られています。山羊チーズの晩餐会なんていうのもありました。ここでも山羊の鳴き声の着信音が人気を博しています。山羊万歳!